

インターネットを活用した分布図の作成 中学校社会科地理的分野での「身近な地域」の教材開発

大井 雅士*・田尻 信壹・西 嘉朗**

Development of Distribution Map using the Internet
: Development of Course Unit “the Familiar Area where we have lived”
in Geographical Field under Junior High School Social Studies

Masashi OHI, Shin-ichi TAJIRI, Yoshiro NISHI

要旨

中学校社会科地理的分野の単元「身近な地域 ～書店、薬店の立地の変遷から見た地域的特色～」の開発と実践は、大学教員、附属学校教員、院生の3者によるコラボレーションによって生まれた。本単元では、身近な地域として「旧富山市」を取り上げ、『NTT タウンページ』とインターネットタウンページを利用して、生徒に「旧富山市」における1997年と2007年の書店と薬店の分布図、4枚を作成させる。そして、作成した4枚の分布図から「旧富山市」の変化や特色を読み取らせるものである。そして、この活動を通して、生徒の身近な地域に対する関心と地理的情報の活用技能を高めることを目指している。

キーワード：中学校社会科，地理学習，インターネットの活用，身近な地域，分布図の作成

Keywords : Junior High School Social Studies, Geography Study, Use of the Internet, the Familiar Area where we have lived, Making of Distribution Map

1 はじめに

本稿は、中学校社会科地理的分野で身近な地域を調査学習するために開発した単元（単元名「身近な地域 ～書店、薬店の立地の変遷から見た地域的特色～」）とそれをういた実践について取り上げ、教材としての有効性を検討したものである。教材の開発と実践は、田尻信壹（富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター・教授）、西嘉朗（富山大学人間発達科学部附属中学校社会科・教諭）、大井雅士（富山大学大学院教育学研究科・院生）の協力によって行われた。単元の開発と実践についての検討は、次節以降で取り上げることにして、ここでは、本単元が開発された背景と実践の経緯について、述べよう。

大井は大学院教育学研究科に在学し、地理学、地理教育学を専攻している。平成18年度後期授業で、大井は田尻の担当する「社会科教育特論演習Ⅰ」を受講した。同授業が教員と院生一人のマンツーマンであったこともあり、大井が中学校社会科地理的分野を対象とした単元開発を、田尻の指導のもとで行うことになった。卒業論文で、大井は「富山市における酒類小売業立地パターンの変化とその要因」について研究した。中学校社会科地理的分野を対象とした、今回の単元開発にあたっては、卒

業論文テーマをベースに進めることになった。しかし、酒類小売業をテーマとして扱うことは、中学校段階の授業では不適切とのことで、中学生にとってもなじみの深い書店を取り上げることにした。単元の開発は2月の授業終了時でも完成を見なかったために、授業期間が自主的に延長され、3月末まで継続した。

平成19年度に入り、「社会科教育特論演習Ⅰ」で開発した単元を、西の協力の下に富山大学人間発達科学部附属中学校の社会科（第1学年）で実施することが決まった。「社会科教育特論演習Ⅰ」で開発された単元は、西の意見を加えて、書店のほかに薬店を加えるなど、教材の組み替えと修正が行われた。そして、社会科地理的分野の授業として、西によって同年5月から6月にかけて実践された。この間、大井は、西の指導のもとに、授業協力者としていくつかの授業を担当した。また、田尻も附属中学校での授業を参観し、西、大井の授業についての助言を行った。

本単元の開発と実践は、大学教員、附属学校教員、院生の3者のコラボレーションによって行われたものである。教育系大学院での院生教育、及び大学と学校との関係による単元開発と実践を推進するための方法として、今回の取り組みは重要であると思われるので、今回、論文文化した。

* 富山大学大学院教育学研究科院生 ** 富山大学人間発達科学部附属中学校教諭

2 身近な地域・地域調査学習の現況と問題点

(1) 地域調査学習の現況

中学校学習指導要領社会編において「身近な地域」という項目が記述されるようになったのは、平成元年告示の学習指導要領からである。そこでは、大項目(2)「日本とその諸地域」における中項目として、「身近な地域」が設定されている。それに対して平成10年告示の学習指導要領においては、大項目(2)「地域の規模に応じた調査」における中項目「身近な地域」となっており、「地理学習において地理的見方・考え方、学び方を習得する場として地域調査が位置付けられ、新しい地理教科書にも地域調査に多くの頁がさかれる」⁽¹⁾ようになった。表1に、現行と旧の学習指導要領の記述をまとめた。

こういった変化が起きてから8年が経過し、身近な地域の調査に関する授業案の提示も多くの蓄積がなされてきた。近年では、多くの学校に普及してきたコンピューター、並びにインターネットを活用した授業開発が多く見られる。特にインターネットの普及が持つ意味は大きく、戸田(2004)によってまとめられているものを参考とすると、インターネットを活用することで教師の教材研究、生徒の情報検索・収集・発信そして情報の作成・交流などの効率が大きくなるというメリットが挙げられている。

しかし同時に、鈴木(2006)が指摘するように、「インターネットを使えば、大抵のことは調べられる」といった誤解も生じてきたのではないだろうか。そのため、地域調査においてインターネットは情報収集などの手段の一つに過ぎないことを確認した上で、身近な地域の授業

開発を行っていくことが必要になるだろう。

こういった現状も踏まえて、地域学習に関する近年の研究動向を見ると、『社会科教育』2005年3月号における特集、「地域学習を“参加型”にどう変革するか」は興味深いものとなっている。そこでは、商業や工業などの地域学習における様々な視点を取り上げ、それぞれの視点から見た時の地域学習の授業案が多く示されている。また、『授業研究21』2004年7月号においては「インターネットで授業が進化する」という特集、『社会科教育』2006年6月号においては「調べ学習の基本形と情報検索の指導」という特集が組まれており、様々なツールを活用した地域学習、調べ学習が提示されている。

身近な地域のみならず、地域学習に関する授業開発にはこれからより多くの実践例を蓄積していくことが必要となるだろう。本稿では、その一つの実践例としてインターネットを利用して分布図を作成し、地域の変化をとらえ、追究を行う授業案を紹介する。

(2) 「身近な地域」の学習における問題点

中学校学習指導要領社会編の地理的分野における大項目(2)の「地域の規模に応じた調査」では、「身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる」とある(表1参照)。

また、内容の取り扱いについて、「地域の規模に応じた調べ方、学び方を身に付けさせるようにすること」、更に「学校所在地の事情を踏まえて観察や調査を指導計

表1 学習指導要領における「身近な地域」に関する記述

	中項目における記述	内容の取り扱いにおける記述
旧学習指導要領 (平成元年版)	(2) 日本とその諸地域 イ 身近な地域 身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を通して地理的な見方や考え方の基礎を身に付けさせるとともに、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせる。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の仕方について考えさせる。	イについては、指導の観点や学校所在地の事情によって学習の効果を高めることができる場合には、内容の(2)のウの中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱ってもよいこと。また、歴史的分野の指導との関連を考慮するとともに、地域の文化や民俗などに関する事象も積極的に取り上げて、自然や産業にかかわる事象だけで地域的特色をとらえさせることのないようにすること。
現行学習指導要領 (平成10年版)	(2) 地域の規模に応じた調査 ア 身近な地域 身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。	ア～ウについては、各項目を比較し関連付けて取り扱い、地域の規模に応じて地域的特色をとらえる視点や方法が異なってくること、それに伴って地理的なまとめ方や発表の方法も工夫が必要であることなどに留意し、地域の規模に応じた調べ方、学び方を身に付けさせること。 アについては、学校所在地の事情を踏まえて観察や調査を指導計画に位置付け実施すること。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めるようにすること。

画に位置付け実施すること」とあるが、これを実際に授業時間内に行うことには以下に挙げるような問題点がある。

身近な地域という、中学校の地理的分野の学習における最も小さな単位の地域規模を対象に調査を行う場合の調査方法は、学習指導要領にもあるように、実際に野外に出て学校の周辺地域や市町村内の各所を観察し、地域の様子や変化を実際に見るというフィールドワークを行うことが効果的である。また、その際には教師が同伴し、地域の変化や実態を表す景観について指摘し、それを確認することで地理的な見方や考え方の基礎を身に付けることができる。

しかし、実際に授業として実施することのできる時間は限られており、更に安全面の問題も考慮に入れると、授業時間内に効果的なフィールドワークを行うことは敬遠されがちである。観察のために校外に出ることが可能であったとしても、それは学校周辺に限られた非常に狭小なものとなってしまう、市町村規模の地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせることは困難なものとなっている。

3 地域の変化に焦点を当てた単元「身近な地域」の開発

（１）分布図作成の有効性

前節で記述したような問題点を踏まえた上で、地域的特色をとらえるための手法として、本単元においては、分布図の作成という手法を用いている。分布図の作成は、店舗などの配置を地図上に記すことでその分布を可視化し、様々な事象の空間的な配置を見る上で効果的なものであり、地理においては基本的な手法である。しかし、それを中学校の授業時間内に行うことは時間的な制約や技術的な問題もあり、詳細な分布図を作成することは困難であった。

しかし、現在では中学校でのインターネットの整備が進み、インターネットによる住所検索などが容易なものとなっている。そこで、これを利用することで、中学校の授業時間内に分布図を作成し、それを基にして地域の現状や変化に目を向けさせた上での観察、調査を行うことが可能となるのではないかと考えた。

同様の授業案について先行研究を挙げると、岡田(2006)のものが挙げられる。ここでは地域の規模に応じた授業実践が提示されており、身近な地域を取り上げる際の授業実践として、「インターネットタウンページ」を利用した分布図作りが挙げられている。そこでは「作図と資料活用能力、インターネットの使い方を身に付ける」ことを授業のねらいとしており、本稿で実践している授業案に近いと言えるだろう。

岡田の授業実践では、「インターネットタウンページ」を用いて様々な業種の事業所を地形図上に表し、市街地に見られる特色を明らかにしている。本稿における単元

開発においては、それに加えて過去に発行されたタウンページを用いて、事業所分布の経年変化を把握し、社会的な事象を明らかにする。そして、明らかになった社会的な事象を地域調査を通して追求することで、より効果的な学習を行うことができると考えた。

類似の学習法としては、例えば新旧の地形図の比較などが挙げられる。これは地図を読み取る能力の向上と、地域に起きた変化の全体像を把握する際に有効なものであると言える。しかし、この方法では、市街地全体のマクロな変化をとらえることができても、ミクロな変化は把握できない。この点を補い、より深い学習を行うために、特定の事象に限定して新旧の分布図の作成・比較を行い、そこから明らかになったことに対して仮説を立て、調査を通して立証するという手法は有効なものであると考えた。

（２）対象とする事象、事物の設定

本単元において取り上げる社会的な事象は、特に地方都市において多く見られる中心市街地の産業の衰退や郊外化といった問題である。1960年代以降、モータリゼーションが進展し、市街地の拡大が大きく進んでいった。大型小売店舗の郊外への進出、道路網の整備なども郊外部の利便性を高め、中心市街地の衰退へ繋がっていった。

富山市も例外ではなく、中心部の衰退が激しい。総曲輪を中心とした商店街には空き店舗が目立ち、中心市街地縁辺部でも北東部や南部への人口流出が激しい。呉羽山より東部、神通川と常願寺川に挟まれた地域が広範な平野部であるため、道路網の整備などが進み、モータリゼーションの進展が激しい地域であったことが、大きく関係していると考えられる。

こういった事象は、ある程度長期間の変化を見なければ把握できないものであり、生徒が実感としてとらえることは難しい。そのため、地域の変化に着目させ、その要因について考察していくことは、主体的に地域の景観などに目を向け、興味をもつことに繋がる。これまで注目することのなかった身近な地域の景観に目を向け、それを形成する要因となっている社会的な事象に注目することで、様々な地理的な見方、考え方を養うことができると考えられる。

本単元では、分布図作成における具体的な事例として小売業のうちの書店と薬店を取り上げ、その立地の変化を基にして中心市街地の衰退や郊外への商業地や住宅地の拡散に注目させた上で、その要因について仮説を立て、調査を行うという方法で単元開発を行った。二つの業種を取り上げたのは、双方を比較し、検討することで事象の一般化が行えると同時に、分布のより明確な特徴を示すことができると考えたためである。

小売業、更には書店・薬店を取り上げたのには、以下の理由が挙げられる。

① 生徒にとって身近な業種であるという点

身近な地域の学習をする上で、生徒にとって身近なものの変化を見ることで、調査などの際の意欲に繋がる。そのため、対象は小売業とした。また、小売業の中でも日常的に生徒が行くことの多い書店、薬店を取り上げることとした。

② 近年で大きな変化の見られる業種であるという点

近年では、書店、薬店ともに小規模の店舗が廃業し、大型のチェーン店が郊外に進出してきている。これは、生徒にとっては実感の薄いものであるが、保護者や教師の年代は実感としてもっているものであると言える。そのため、調査の際にも地域の人々に話を聞くことも可能であると考えられる。

③ 店舗数が適切であるという点⁽²⁾

分布図を作成して変化を見る際には、適切な数の店舗数があり、変化が顕著に見られるものでなければはっきりとした変化をとらえることができない。また、分布図の作成には、ある程度の時間や慣れが必要となってくる。それを念頭に入れて主な小売業の店舗数をNTTタウンページを用いて調べ、適切であると思われた書店、薬店を取り上げることとした。

また、過去のタウンページとして、10年前の1997年のものを使用した。過去のタウンページは富山県立図書館において所蔵されており、閲覧、コピーが容易に行えることも大きなメリットとして挙げられる。10年前のものを使用したのは、生徒の幼少期から現在にかけて、富山市において起こった変化に注目することで生徒の興味・関心を引くことができるとともに、保護者や地域の人々の実感を踏まえた上での話も聞くことができると考えたためである。

4 富山大学人間発達科学部附属中学校での授業実践

(1) 単元「身近な地域 ～書店、薬店の立地の変遷から見た地域的特色～」の目標と指導計画

単元「身近な地域 ～書店、薬店の立地の変遷から見た地域的特色～」では、目標として、生徒に次の知識や技能・態度を習得させることを目指す。

① 知識目標

身近な地域の特徴とともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けることができる。

- ・ 地域的特色をとらえる視点には、「地域の環境条件」、「他地域との結び付き」、「人々の営み」の3つがあることを理解する。
- ・ 地域的特色をとらえる方法として、分布図の作成や野外調査、縮尺の大きな地図の利用などがあることを理解する。
- ・ 地域調査の結果を、地域的特色と関連付けてまとめることや、地図化するなどの工夫をして発表することを通して、地理的なまとめ方や発表の方法を理解する。
- ・ 縮尺の大きな地図を活用するための基本的な知識を身に付けることができる。

② 技能・態度目標

- ・ 身近な地域に対する関心を高め、地域的特色をとらえるため、観察や調査などに意欲的に取り組むことができる。
- ・ 課題に対する仮説を立てたり、仮説を検証するための方法を考えたりすることができる。
- ・ 身近な地域に関する調査の中で、地図や統計などの資料の収集を行い、有用な情報を選択して活用するとともに、身近な地域の特徴を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりすることができる。

本単元の配当時間は11時間とし、指導計画を、表2「単元『身近な地域 ～書店、薬店の立地の変遷から見た地域的特色～』の指導計画」としてまとめた。

また、本単元では、身近な地域として、合併前の富山市（以降、「旧富山市」と表記）を取り上げる。現在の富山市は、平成17（2005）年4月に富山市、大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村が合併し、面積が1,241.85km²と非常に広域である。調査範囲を狭めることやある程度のまとまった資料を得やすいことなどを考慮に入れて、旧富山市を身近な地域として設定した。

表2 単元「身近な地域 ～書店、薬店の立地の変遷から見た地域的特色～」の指導計画

時	小 単 元	学 習 活 動
1	第1次 旧富山市の特色を調べるにはどのような方法があるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での既習事項や体験などから、旧富山市の特色だということを発表する。 市町村規模の地域的特色をとらえるにはどのような方法があるかを調べ、発表する。
2 3	第2次 なぜ地形図から旧富山市の特色がわかるのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 縮尺、方位、主な地図記号を確認する。 等高線と傾斜の関係を理解する。 新旧の地形図を比較し、旧富山市の変化を読み取る。 学校の屋上から東西南北の景観を観察し、地形図と見比べることを通して学校周辺の景観を確認する。
4 5	第3次 商店の立地はどのように変化しているのだろうか。～書店と薬店を例に～	<ul style="list-style-type: none"> 現在と10年前のNTTタウンページを使い、分布図を作成する。 分布図から地域的特色を読み取り、それをもとに身近な地域的特色をとらえるための課題を設定する。
6 7 8 9 10 11	第4次 なぜ旧富山市中心部に書店や薬店が少なくなったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに課題に対する予想を立てる。 予想を検証するための方法を考え、調査計画を立てる。 グループごとに身近な地域の観察や調査に取り組み、課題を追究するための情報を収集する。 観察や調査の結果をもとに予想の検証を行う。 課題を追究し考察した過程や結果をまとめ、ポスターセッションの準備をする。 ポスターセッションで、課題を追究し考察した過程や結果を発表したり、発表を聞いて質問したりする。 ポスターセッションを通して身近な地域的特色とそれを追究するためのより適切な視点や方法を整理する。

(2) 実践の内容

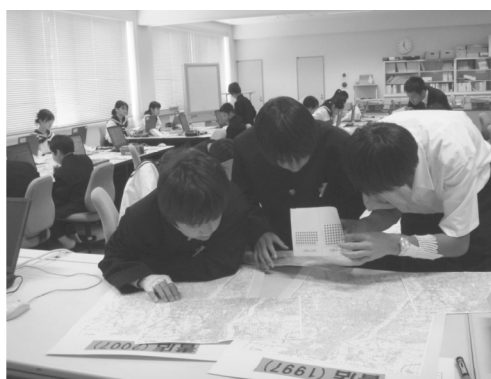
ここでは、指導計画第3次の授業実践を紹介する。第3次は、タウンページを利用して分布図を作成し、その分布図をもとに課題を設定する授業である。

この実践は、平成19年5月～6月にかけて、富山大学人間発達科学部附属中学校1年生4クラスで、西と大井のT.T.（ティーム・ティーチング）による授業で行われた。

本次は次のような過程で授業を行った。

- ① タウンページと検索エンジンを使って分布図を作成する方法を知る（授業で配布した資料は資料1～4を参照）。
- ② クラス内の生徒が分担して、4枚の分布図（書店1997年、書店2007年、薬店1997年、薬店2007年）を作成する。

4枚の分布図を作成するために調べなければならない書店と薬店の場所は、延べ278ヵ所にもなる。これらをクラス内の40人の生徒で分担して、分布図を作成した。



分布図を作成する生徒たち

一人あたり7店舗の場所を調べればよいのだが、時間内に終わらず、放課後残って作業を行う生徒もみられた。

その時に作成した分布図については、資料3「生徒が作成した書店と薬店の分布図」で紹介する（86頁を参照）。

- ③ 4枚の分布図を見て、気づいたことを発表し、書店と薬店の分布がどのように変化したかをまとめる。



附属中学校での授業風景

4枚の分布図を見て、気づいたことやわかったことをできるだけ多く発表させるようにした。

〈生徒が分布図を見て気づいたこと〉

両方の店舗に共通すること

- ・全体的に中心部にかたまっている
- ・2007年の方が中心部から広がっている
- ・中心部にある大きな道に沿って店がある
- ・地図の黒くなっている部分（住宅密集地）に書店や薬店が多い
- ・南東や南西に田が多く店が少ない

書店に関すること

- ・書店の数が減った
- ・薬店は南の部分にあるが書店はない
- ・田の真ん中で営業している書店がない
- ・1997年の書店は並んで営業しているが2007年の書店は分散している
- ・北陸自動車道の南に書店はない
- ・同じ場所で営業している書店が少ない

薬店に関すること

- ・薬店は同じ場所で営業している店が少ない
- ・1997年は北西に2店舗あるが、2007年は1店舗
- ・薬店は数はあまり変わらないが店と店の距離が離れた

生徒の意見が出つくしたところで、これまでの意見を踏まえて、店舗の分布の変化に着目させた。

〈生徒が気づいた変化〉

- ・全体的に書店と薬店の数が減っている。
- ・1997年は中心市街地に多かったが、2007年は郊外に分布している

これらの発表を通して、「なぜ旧富山市中心部に書店や薬店が少なくなったのだろうか。」という課題が設定され、第4次以降の追究・まとめ・発表の一連の活動が展開される。

5 おわりに

今回の実践は、身近な地域の特色をもとに課題を設定する授業であった。適切な課題を設定するためには、身近な地域の特色を的確にとらえなければならない。今回の実践では、タウンページを利用した分布図の作成によって、身近な地域の特色を明確にすることができ、課題を設定する上で、有効であったと考えられる。また、タウンページを利用して店舗の位置を確認したことで、電話での聞き取り調査や現地調査など、第4次での追究活動も行いやすくなった。

身近な地域の授業では、野外観察をもとに分布図を作成することが望ましいとされているが、授業時間内に校外に出ることはなかなか難しい。タウンページやインターネットを利用することにより、身近な地域の店舗に関する分布図を手軽に作る今回の方法は有効であると考ええる。今回の実践では、課題設定のために分布図を作成したが、他の場面でもこの方法が活用できないかを考えてみたい。

分布図の対象となる店舗についてであるが、今回は、書店と薬店を取り上げた。書店も薬店も中心市街地の個人経営の店舗が減少し、郊外にチェーン店が進出してきているという実態は共通している。しかし、薬店については、近年、業務形態が変化してきていることや、薬局と混同して考える生徒が出てくることなどから、授業での取り扱いが難しいことがわかった。今後は、書店だけにしぼって分布図を作成するなど、教材の組み替えや内容の修正等の改善が必要であろう。

本単元の開発と実践は、大学教員、附属学校教員、院生の3者のコラボレーションによって行われた。私たちは、それぞれが研究や校務の多忙さのために、十分な時間がとれたとは言い難い。また、単元観においても、3者の間で完全な一致が見られたわけでもない。しかし課題を抱えていたとはいえ、単元の開発と実践での、大学教員、附属学校教員、院生の連携という今回の試みは、教育系大学院での院生教育、及び大学と学校との関係による単元開発と実践の在り方を考える上で、大いに意義があったと考える。今後は、この取り組みを更に深めていきたい所存である。

【注】

- (1)『地理』2004年5月号 p 32-35
- (2) 店舗の位置を確定するためには、一軒あたり約5分の時間が必要となる。そのため、多くの小売業の中でも、約50～100軒ほどの店舗が掲載されているものを調査し、抽出した。

引用文献

- 大井雅士 2007. 「富山市における酒類小売業の立地パターンの変化とその要因」 日本地理学会2007年春季学術大会一般発表
- 岡田智行 2006. 「『地域の規模に応じた調査』では“この調べ学習” 授業が盛り上がるテーマと方法」 社会科教育 (564) 94-96
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2002. 『評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料 (中学校) - 評価規準, 評価方法等の研究開発 (報告) - 澁澤文隆・佐伯真人・大杉昭英編著 2000. 『改訂中学校学習指導要領の展開 社会科編』 明治図書
- 澁澤文隆著 2001. 『中学校社会科新地理学習の方向と展開』 明治図書
- 澁澤文隆編 2001. 『中学校社会科指導展開事例集』 東京法令出版
- 鈴木康一 2006. 「調べ方の全体像と指導のポイント」 社会科教育 (564) 12-17
- 鈴木康一ほか 2006. 「特集『調べ学習の基本型と情報検索の指導』」 社会科教育 (564)
- 『地理』編集部 2004. 「『身近な地域の調査』実践していますか? - アンケート調査から」 地理49 32-35
- 椿原正和ほか 2005. 「特集『地域学習を“参加型”にどう変革するか』」 社会科教育 (549)
- 戸田佳孝 2004. 「暗記科目でない『社会化』への進化」 授業研究21 (572) 51-52
- 文部省 (現・文部科学省) 1989. 『中学校学習指導要領』 大蔵省印刷局 (現・財務省印刷局)
- 文部省 (現・文部科学省) 1998. 『中学校学習指導要領』 大蔵省印刷局 (現・財務省印刷局)
- 文部省 (現・文部科学省) 1999. 『中学校学習指導要領 (平成10年12月) 解説-社会編-』 大阪書籍
- 山極隆ほか 2004. 「特集『インターネットで授業か進化する』」 授業研究21 (572)

(2007年8月31日受付)

(2007年10月23日受理)

資料編

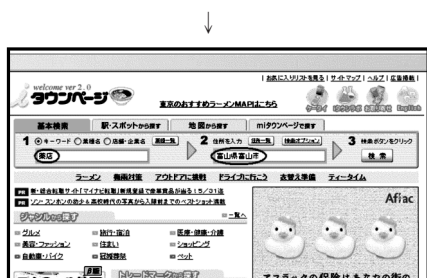
以下に示す資料は、本単元を実施するにあたって、大井が作成し、生徒に配布したものである。

- 資料1はインターネットタウンページを使用して分布図を作成する際に配布したものである。しかし、過去に存在した店舗の位置を同定する際にはインターネットタウンページを使用することができない。そのため、資料2に示したように、NTTタウンページとインターネットの地図検索サイトを使用しての作成方法を資料として配付した。
- 資料3は生徒が、今回作成した書店と薬店の分布図である。

資料1

「インターネットタウンページを使用した分布図作成法」 インターネットタウンページで目的地を探そう！

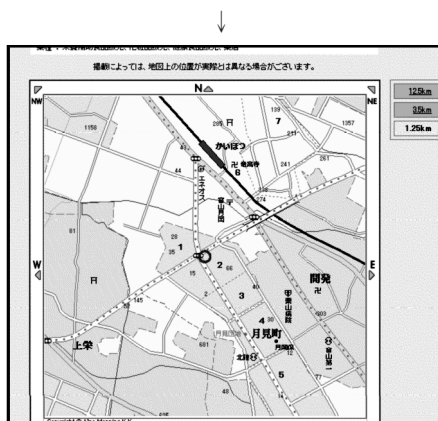
1. YAHOO!で「タウンページ」と入れて検索すると、「iタウンページ」というサイトが出てきます。



2. クリックすると上のようなサイトに行くので、一番上の部分のキーワードに自分の調べたいもの（書店か薬店）、住所の部分に「富山県富山市」と入れて、検索ボタンを押します。



3. このようなページに入ったら、後は自分の調べているお店の「地図」というマークをクリックするだけで...



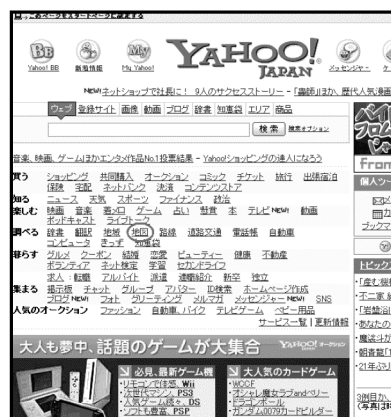
4. その場所が地図の中心に出てきます。時々、真ん中の丸が出ない時もありますが、その時は地図の中心の部分に印をつけておいて下さい。資料1で使用するサイト：iタウンページ（http://itp.ne.jp/ 2007年3月12日取得）

資料2

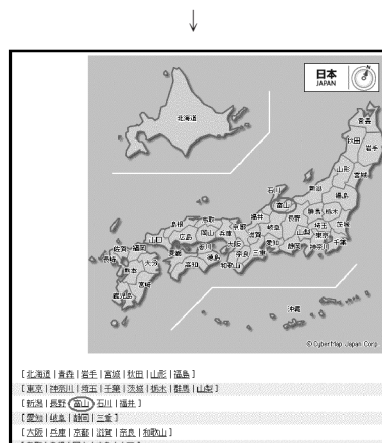
「NTTタウンページを使用した分布図作成法」 NTTタウンページとインターネットで作る 分布図・目的地を探そう！

例：附属中学校の位置を調べる時

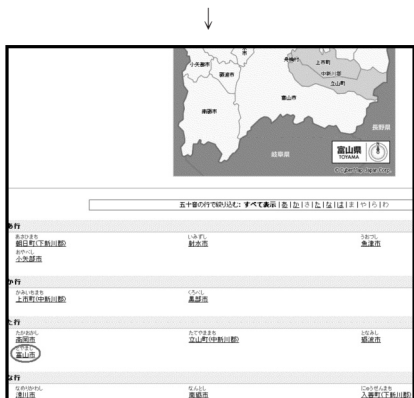
附属中学校の住所…富山市五艘1300



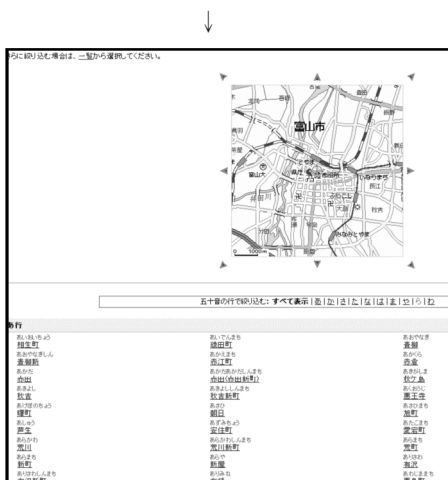
1. 「地図」の部分をクリック。



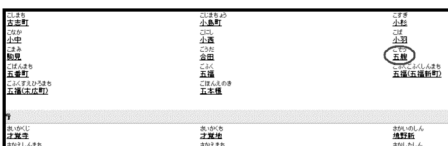
②. 「富山」をクリック。



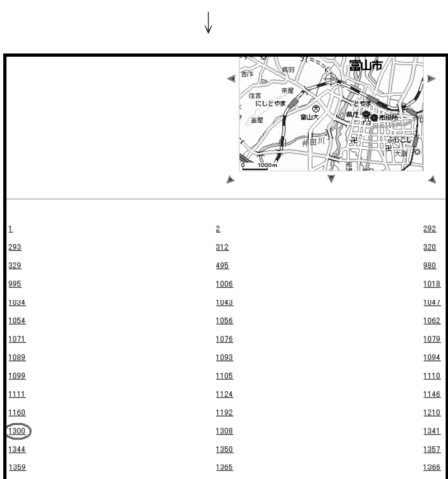
③. 赤丸で囲んだ、「富山市」をクリック。



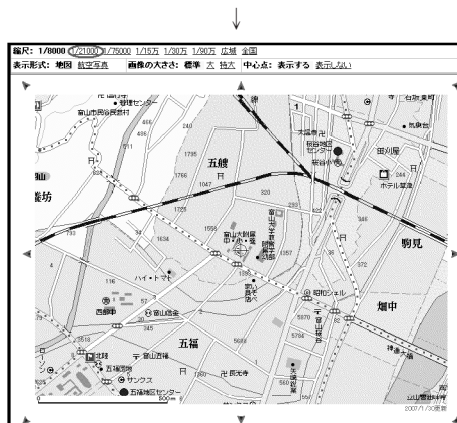
④. するとこのような画面になるので、下の地名の一覧から五艘を探します。



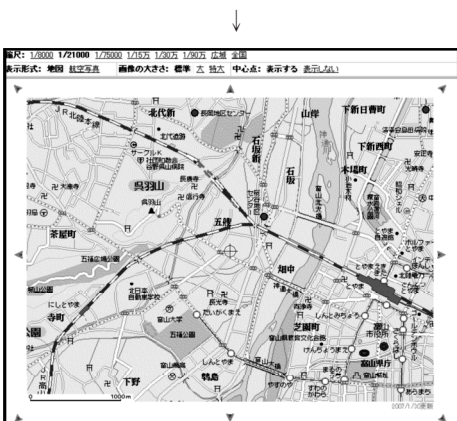
これをクリックすると…



⑤. 番地一覧になるので、ここで「1300」をクリック。



⑥. これで、位置が分かるようになりました！（地図の真ん中の部分）しかし、ここが富山市のどこなのか分からない…ということもたくさんあります。そういう時は、上の「縮尺」のところをクリック。例えば 1/21000 をクリックすると…



⑦. 地図の範囲が広がるから、ここが富山市のどのあたりにあるかが分かりやすくなります。

注

※例えば1997年の薬店の1番目は「あまの薬局」で、（月見2-41）となっていますが、この場合は（月見町2丁目、41番地）のことを指しています。

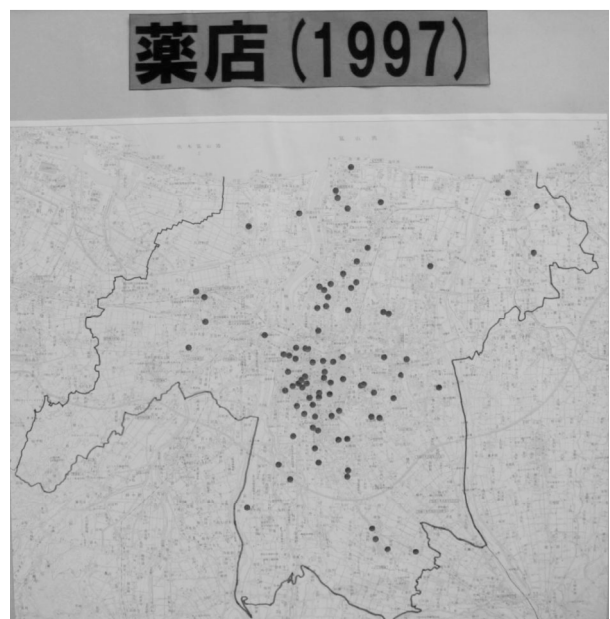
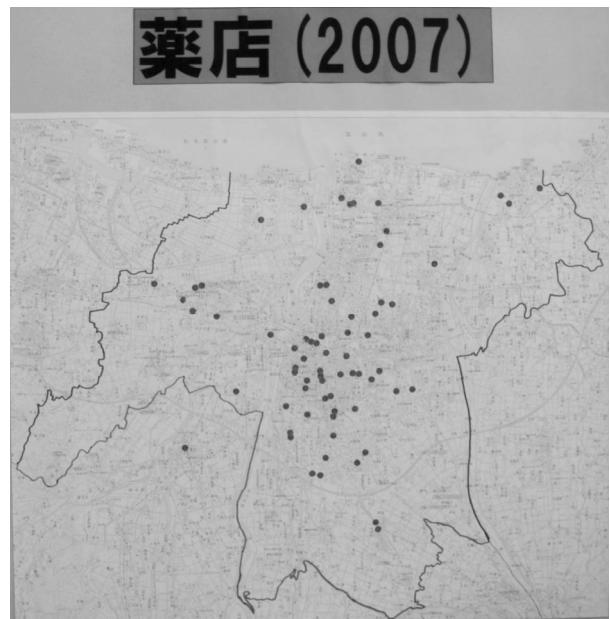
※もしかしたら、ピッタリの番地が出てこないこともあるかもしれませんが、番号が少し違ったりするくらいなら特に問題はありません。

例：探してた22番地はなかったけど、24番地はあった。

○もしもどうしても出てこない番地があったら、近くに
いる先生に聞いてみて下さい。

資料2で使用するサイト：YAHOO! 地図情報
(<http://map.yahoo.co.jp/> 2007年3月12日取得)

資料3 生徒が作成した書店と薬店の分布図



縮尺50000分の1の「富山市及び近郊図」を利用

地図上の境界線は、旧富山市を表す

書店の分布図に描かれている円は、市役所を中心に半径2 kmの円で、この範囲内に中心市街地が含まれる